

3rd Tohoku Trip Report

March 26th – 30th
2014



Member's List

Name	Gender	Glade	Address
Eka Suzuki	F	J2	Chiba
Haruki Fukuba	M	E4	Okayama
Hibiki Terao	M	E3	Hyogo
Hinako Hosotani	F	J1	Nara
Jun Terao	M	E6	Hyogo
Keita Odashima	M	E4	Chiba
Kotaro Oishi	M	J2	Tochigi
Kyohei Yamamoto	M	J2	Kanagawa

Name	Gender	Glade	Address
Marika Shimizu	F	J1	Tokyo
Miki Terao	F		Hyogo
Nana Okawara	F	E5	Shizuoka
Nanako Okumura	F	J1	Osaka
Rio Shimoda	F	J3	Hyogo
Satsuki Asahi	M	E6	Hyogo
Yua Suzuki	F	J1	Chiba
Yume Suzuki	F	J3	Chiba

Nickname	Gender	Nationality
Dhanu	M	Sri Lanka
Fauzan	M	Indonesia
Kat	F	Thailand
Linh	F	Vietnam

Nickname	Gender	Nationality
Mak	M	Botswana
Mandy	F	China
Nesya	F	Indonesia
Popoy	M	Philippines



Name	Gender	
Akihiro Chiba	M	Former Assistant Director General for Coordination of Operational Activities, UNESCO HQ
Hiroshi Shinagawa	M	Global Network Team Leader
Mika Adachi	F	Global Network Team
Yuko Manome	F	Global Network Team

Schedule	
DAY 1 3 / 26	仙台空港集合 名取市閑上地区 案内ガイドさんと視察 ホテルへ移動 オリエンテーション 振り返り / ダイアリータイム / 明日の準備 / フリータイム
DAY 2 3 / 27	閑上あみーずさんとの交流 南三陸町 案内ガイドさんと視察 さんさん商店街（仮設商店街）訪問 振り返り / ダイアリータイム / 明日の準備 / フリータイム
DAY 3 3 / 28	大船渡市 居場所ハウス 地元の方々との交流 地元の子どもたちとの英語イベント 金野聡子さん（被災地の紙本・書籍保存修復士）のお話 振り返り / ダイアリータイム / 明日の準備 / フリータイム
DAY 4 3 / 29	田老地区の視察 田老駅から宮古駅まで三陸鉄道乗車 仮設住宅訪問（国の紹介・昼食・フリーコミュニケーション） 世界の地震について知る 振り返り / ダイアリータイム / 感想文記入 / フリータイム
DAY 5 3 / 30	岩手県 浄土ヶ浜観光 感想文記入 盛岡駅解散

MAP



DAY1

私たちは8か国、28名で2014年3月26日～30日に東北トリップに行ってきました。

この東北トリップの目的は次の4つです。

- ① 現実や現場を直接体験して、視野や行動の幅をひろげること
- ② 現地の方のお話や交流を通して学ぶ
- ③ 学んだことを英語で多くの人に伝えること
- ④ これから私たちにできることを考える

私は関上の人々は、震災の事を自分から伝えようとしていて、とても勇敢だと思いました。



Keita



初めにみなさんに質問があります。東日本大震災で起こった津波で何人の方が亡くなったか知っていますか？約 **15,880** 人の方がなくなっています。東日本大震災から3年が過ぎました。復興の状況は新聞やニュースで知ることができます。しかし、私たちが知らなければいけない重要な事が他にもあると思います。それは、東北で多くの方が亡くなったという事実です。その亡くなった方は誰かのお父さん、お母さん、兄弟、姉妹、息子、娘、おじいちゃん、おばあちゃんなのです。自分の家族が明日、いなくなる事を想像してみてください。東北の方はそんなとても悲

しい思いをしたのです。私たちはこの事を絶対に忘れてはいけません。宮城県名取市関上地区で案内ガイドの丹野さんに会いました。丹野さんも津波で息子さんを亡くされていました。本当に悲しい思いをされ、何もしたくないくらいだったと思います。しかし、丹野さんは息子さんを亡くした事をきっかけに、津波で亡くなった他の人の事も考えました。関上中学校の亡くなった生徒 **14** 名全員の名前の入った記念碑を作りました。子どもたちの名前に触れてほしいという思いから、記念碑は触りやすい形になっています。みなさんも東北を訪れ、子どもたちの名前に触れてあげてください。丹野さんは地震を風化させないようにという活動もされています。東日本大震災の記念館を作り、多くの人に地震の悲劇を伝える事や被災地の情報を集め若い世代に引き継いでいくことを考えています。みなさん、この発表で聞いたことをできるだけ多くの人に伝えてください。

Kyohei



閑上地区を最初に見たときはとてもショックを受けました。町はとても静かで風の音が聞こえました。がれきは片づけられ、何も残されていませんでした。その「何もない」町を見て目に涙が出てきました。数千家庭の人々が生きていた

場所が何もなくなってしまったのを見て、恐れを感じ震えました。私は町をのみこんだ高さ 20 メートルの怪物のような波を想像し、家や大切な人を失った人々がその光景を見ることがどれだけ辛いものだったか考えました。しかし、閑上地区の方々にお会いし、お話を聞くと、心に傷を抱えながらも、今はとても強く前へ進もうとされていることを感じました。私はみなさんが辛い記憶を持っていることだけでなく、町に対して希望を持っておられることを知りました。もちろん私も閑上地区の皆さんに起こったことを決して忘れません。「何もない」景色が未来にはどうなるか、希望と夢を持っています。将来、閑上地区がどのような町になるのか楽しみです。

Kat

DAY2

2 日目には、2 か所を訪問しました。まずホテルを出発し、閑上あみーずのみなさんに会いました。閑上あみーずは編み物を通して交流をしているグループです。



あみーずのみなさんがボンボンの作り方を教えてくださいました。そのボンボンでサクランボのブローチを作りました。一緒にお弁当を食べ、いろいろなお話を聞きました。その後、バスで約 2 時間かけて南三陸町へ向かいました。南三陸町ではボランティアガイドの佐藤さんに、町の案内をしていただきました。津波は 28 メートルまで達し、とても怖かった事など、たくさんのお話をしてくれました。その後、さんさん商店街で夕食を食べました。2 日目はもともと小学校だったホテルに泊まり、特別な 1 日となりました。これからそれぞれの活動を紹介します。

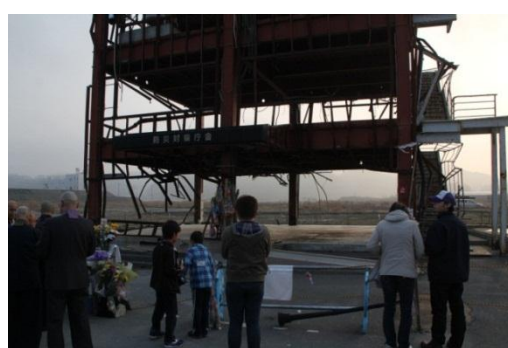
Nesya



まず、関上あみーずのみなさんとの活動をお話します。私はサクランボを作るのが楽しかったです。ボンボンをきれいな丸に切って整えるのは難しかったです。あみーずのみなさんがとても優しく手伝ってくださいました。これが作ったサクランボです。ひとつは自分たちで作り、ひとつはあみーずのみなさんが作ってくださっていました。完成した時はとても嬉しかったです。お昼を一緒に食べている時には、津波のお話をしてくださいました。とても大きな津波だったので、町の人みんな山や高い建物に走って逃げたそうです。津波はとても怖いと思いました。

Nana

その後、南三陸町へ行きました。波はとてもおだやかで、魚釣りをしている人もいました。今、海はとても平和だと感じました。しかし、2007年のチリ地震の時には、3〜4メートルの津波が南三陸町に来ました。その経験を元に、



7メートルの水門が作られました。しかし、東日本大震災で起こった津波は3倍以上の高さでした。この津波で南三陸では被害を受けた方が約1,000人いました。私たちは海の近くにある戸倉小学校と中学校を訪れました。ここも津波の被害を受け、窓ガラスは壊れ、時計は止まったままでした。次に津波の被害の大きかった防災庁舎に行きました。多くの人が避難していましたが、生き残ったのは7人だけでした。防災庁舎の周りも一目で被害の大きさがわかりました。

Yua

南三陸町を案内していただいた後、さんさん商店街に夕食を食べにいきました。まずアイスクリームを食べました。とてもおいしくて幸せな気持ちになりました。夕食は豊楽食堂でラーメンを食べました。お店の方が東北の食べ物についていろいろ教えてくださいました。みなさんとても優しく、東北の人は心が温かいと思いました。そこで食べたカキは今まで食べたカキの中で一番おいしかったです。この東北トリップではおいしいものをたくさん食べました。おいしいものを食べると幸せな気持ちになります。私は東北の人に感謝しています！



Eka

DAY3



3日目には地元の方、特に子どもたちと交流する機会がありました。みんなとてもフレンドリーで温かく迎えてくださいました。1番感動した事は、前向きに過ごされていた事です。子どもたちから年配の方まで、誰も3年前にひどい災害を受けたとは感じさせませんでした。私たちの為にたくさん準備をしてくれ、一緒に話し・遊び、楽しい時間を過ごすことができました。私はみなさんの笑顔を見られた事がとても嬉しく、安心しました。地元の方も私たちの「東北のみなさんはひとりじゃない、世界の人が想っています！」というメッセージ

を感じてくださっている事を願っています。

Linh

私は大船渡市の居場所ハウスを訪れ、地元の方々と楽しい時間を過ごしました。えかちゃんと私ははじめの挨拶の担当をしました。少し緊張しましたが、全力を尽くせたと思います。そこでは、郷土料理や他の国の料理も食べました。私は地元の方々と「鍋焼き」を作りました。ホットケーキのようなもので、とても美味しかったです。リンはベトナム料理の生春巻きを作りました。私はそれをソースにつけて食べました。ポボイは「シニガンスープ」というフィリピン料理を作りました。とても酸っぱかったですが、美味しかったです。郷土料理もとても美味しかったです。私が焼いた鍋焼きもとても甘く、美味しかったです。地元の方々はとても私に優しく接してくださり、幸せな気分になりました。いつかまた皆さんにお会いしたいです。



Hinako

今日は幸せな一日でした。みんなと一緒に料理をしました。僕は生春巻きを作りました。教えてもらって、ひとりで作ることができました！とても美味しかったです。

Hibiki





今日は 2011 年 3 月 11 日の後、何が起きていたのかを聞きました。この写真の通り、学校のグラウンドには仮設住宅が建っています。私たちは政府の支援が地域や人によって差があること、仮設住宅に 3 年以上も住むことの大変さ、それぞれに異なる大変さを抱えている事などを知りま

した。私は東北の人々の強さや前に進もうとする思いに感服しました。東北のみなさまへ 勇敢にいてくださり、ありがとうございます。私たちはいつもみなさまの幸せを願っています。

Popoy

Day3 に金野さんにお会いしました。金野さんは興味深いお話をたくさんしてくださいました。金野さんのお仕事は写真を修復することです。金野さんはロンドンでグラフィックデザインと共に、本や写真の修復方法について学びました。東日本大震災が起こり、津波が発生したとき、金野さんは故郷である大船渡市が津波によって被害を受けたことにショックを受けました。そして、故郷のために自分は何ができるだろうかと考え、それは写真を修復することだと思いました。なぜなら写真は思い出を記憶にとどめておくために必要だからです。もし写真を失ったら、思い出を思い出すのは難しくなります。大船渡市には 4 5 万枚の汚れてしまった写真がありました。そのうちの 4 2 万枚を持ち主の元へ返すことができました。金野さんはご自身の経験を話され、「怖がらないで、恥ずかしがらないで、ただ前へ進むのみ！」と私たちに言いました。この言葉に私はとても感動しました。私たちにはたくさんの機会があります。私たちは行動すべきです。そうすれば何でもできると私は思います。



Rio

DAY4

僕は三陸鉄道についてお伝えします。三陸鉄道が復旧し、僕たちは乗車しました。とても、印象的だったのは、地震が起きましたが、東北の人々の気持ちはとても強いということでした。



Jun

津波という大惨事を乗り越えた宮古市の人々についてお伝えします。皆さんの家族や友人など多くの死傷者が出たこと、町の崩壊、新しい居住地を見つけることの大変さや震災によるトラウマがあるにも関わらず、皆さんはとても強い気持ちを持っておられました。皆さんは私に、深い悲しみよりも幸せを選択することで困難を乗り越えられることを教えてくれました。

Mak



今日、僕は宮古市についてお伝えします。おばあさんは津波の話を聞かせてくれました。地元の皆さんは落ち込んだ様子ではなく、元気で活力にあふれていました。第3回東北トリップに参加するまでは、津波についてよく知りませんでした。でも、いろんな話を聞いて津波はモンスターのようだと思いました。おばあさんは、津波は約24メートルの高さだったと話しました。僕の身長の16倍です。そんなに高いなんて信じられません。もう二度と同じことが起こらないことを願います。

Haruki

地元の方々と過ごした大切な時間についてお伝えします。僕たちは5つのチームに分かれ、それぞれ違う仮設住宅を訪れました。そして、僕が訪問した「河南仮設住宅」についてお伝えします。河南仮設住宅はとても静かな場所でした。子どもたちが数人、何かをして遊んでいました。最初の20～30分、地元の方々が談話室に来るのを待っていました。来て下さるのかと不安になりましたが、一人ひとり、順に来て下さいました。そして、合計10人の方が集まってくださいました。そして、まず初めに自己紹介をしました。少し緊張しましたが、言うことができました。そして、キャンプリーダーたちが出身国の紹介をしました。とても楽しいもので、地元の方々も楽しんでくれていたようで、ずっと笑っていました。そして昼食後、一人の方が「おせんべいをつくりましょう!」と言われました。そして、おせんべいを作り始めました。とても楽しかったです。地元の方々と協力して作ることができました。皆さんの料理の腕前に驚きました。おせんべいを作るのがとても上手でした。3種類のおせんべいを作ったので、3つの味を楽しめました。とても美味しかったです。地元の方々との時間はとても楽しかったです。



Kotaro

世界の地震の事も知りました。日本では津波が発生しましたが、地震の被害を受けたことがあるのは日本だけではありません。1976年には中国で大きな地震が起こりました。トラック、車、飛行機がなく、人々は人を助けるために手脚を使いました。そこはとても美しい都市でした。スリランカでも地震が起こりました。とてもとても悲しく、信じられないことです。世界中で防災対策が進むことを祈ります。

Satsuki



DAY5

トリップの最終日は、朝食後に浄土ヶ浜観光をし、遊覧船に乗りました。たくさんのカモメがエサを求めて私たちに飛んでついてきました。私たちはカモメにパンをあげるのをとても楽しみました。東北はとても美しいところです。ぜひ皆さんも訪れ、経験してみてください。

Dhanu



私たちは東北トリップで多くの場所を訪れ、東北の変化を感じました。新しい建物が建てられていたり、宮古市では鉄道が復旧していたりしていました。もうがれきはありませんでした。これらの変化には驚きましたし、嬉しかったです。しかし、まだ復興は完全には終わっていません。復興にはまだまだ時間がかかると思います。復興するまで見届けたいと思います。皆さん、東北のことを忘れないでください。それが一番大切なことだと思います。

Yume

この東北トリップを通して、より早い復興のためには、地震とは何か、津波とは何か、あの日何が起こったのかを一人一人がしっかりと伝えていくことが大切だと思いました。また毎日、笑顔でいることも大切だと思いました。このトリップで出会った人々を幸せに、そして笑顔にできたのであれば嬉しいです。希望でいっぱいの未来にしましょう。



Nanako



深く悲しんでいる人や壊れた家や建物をたくさん見ました。私は東北が復興していると思っていましたが、そうではありませんでした。子どもたちが悲しんでいる姿も見ました。その子どもたちをととても幸せにしたいと思いました。彼らの人生は自由です。子どもたちが幸せになる事を期待したいです。このトリップを通じて私たちはたくさんの大切なことを学びました。この大切なことを忘れないようにしたいです。（私たちは東北のことや津波の恐ろしさを次の世代へ伝えていきたいです。そして、東北で聞いたたくさんの事、東北の現状や津波の恐ろしさを次の世代にも伝えていきたいです。

Marika





KUMON EDUCATIONAL JAPAN CO.,LTD.

Public Relations Department

Global Network Team

Kumon Kyoiku Kaikan, 5-6-6 Nishinakajima, Yodogawa-ku,
Osaka, 532-8511, Japan

Tel:+81-6-6838-2683 Fax:+81-6-6838-2664

URL: www.immersioncamp.com